

# 職場における交通安全指導 Part.23

## 構内等の多発事故パターンとその防止策

これまで3回にわたり、「道路形状別」にみた多発事故パターンとその防止策を取り上げてまいりました。

最終にあたる今回は、貨物自動車を引き起こす事故には、荷主先の倉庫や工場・駐車場、あるいは工事現場等、いわゆる構内で発生する事故が多いことから、「構内等の多発事故パターンとその防止策」を掲載いたしましたので、社内の運転者教育にご活用ください。

### 構内等の多発事故パターンとその防止策

構内は、荷の積み降ろしのための車両が頻繁に出入りしており、ふとした気の緩みから事故が発生しやすい状況にあります。特に、次のようなケースで注意が必要です。

#### 1. 構内へ進入する際の事故防止

一般道路から左折して構内へ進入する際に、左側の二輪車や自転車などを巻き込む事故、あるいはバックしながら進入しようとして、構内入口付近のブロック塀や駐車車両に接触するというケースです。

この種の事故を防止するために、次の点を指導してください。

##### (指導のポイント)

早めに左折ウィンカーを出したからといって、一気に左折せず、サイドミラー等により二輪車等の存在の確認を十分に行う。もし二輪車等がいる場合には先に通行させ、再度安全を確認したうえで、最徐行で左折する。

やむを得ずバックで進入する場合は、荷主先の人や近くのドライバー等に誘導してもらうよう心

掛ける。

もし誘導してもらえない場合、必ず下車して後方の安全確認を行い、ゆっくりと後退を開始する。その際、カーラジオなどは消して窓は全開にしておく。



#### 2. 構内作業中での事故防止

荷積みや荷降ろしのためにバックしてプラットホームに着ける際に、助手席のドアや観音扉を開いたままバックして、隣の車両に接触したり、積荷製品を倒して破損させるケースです。

貨物自動車は車両構造や積荷の関係から、後方の死角が多く、安全確認を十分に行わなければ非常に危険な状態のまま運転することになります。特に保冷車のように箱型の車両は、後方が完全にふさがれていますので、バックする際は相当慎重な運転操作が要求されます。

さらに、この種の事故は運転者のちょっとした不注意から起きていますので、次の点を指導してください。

##### (指導のポイント)

バックする前に、必ず車から下車して後方の安

全を自分の目で確認する。

狭い場所のプラットフォームに着ける場合は、ドアや観音扉を開けたままのバックは絶対に行わない。

「多分、大丈夫だろう。」などの自分に都合の良い見込み運転は非常に危険性が高いので、少しでも危険と感じたら、無理をせずに最初からやり直す。

構内作業員やフォークリフト作業員の存在には十分気を付ける。

停止したら速やかにエンジンを切り、サイドブレーキを確実に引く。

### 3. 構内を移動中の事故防止

移動中における最も多い事故は、漫然とバックして駐車車両に接触する事故です。

バック時に発生した事故を調べてみると、「ちょっとだから」という油断によるものが大半を占めており、結果、大きな事故を引き起こすケースがしばしばあります。

ダンプカーの場合、ダンプを上げたまま、あるいはユニック車でユニックを戻さないまま構内を走行して、ケーブルや電線を切断する事故も発生しています。

運転者の集中力の低下がこの種の事故に直結しているものと思われるので、次の点に注意して指導してください。

#### (指導のポイント)

バックする際の基本原則は、後方の安全確認である。

バックで移動する場合は、必ず後方の障害物の有無(特に駐車車両)および安全確認を自分の目で行う。

作業を終了した時点で、機械装置は必ず元の位置に戻す。

構内では、前後左右の設備のみにとらわれず上部にも気を配る。

### 4. 構内を出る際の事故防止

構内での仕事を終え、気持ちがホッとするのか、出庫に際し公道を直進してきた車両や二輪車と衝突するケースも多発しています。

このような事故は、相手方のスピードが出ている場合が多く、大半の場合が重大な人身事故につながっています。構内から公道へ出る際は十分に気を付けなければなりません。

この種の事故を防止するために、次の点について指導してください。

#### (指導のポイント)

構内出口では必ず一旦停止を行い、左右の安全確認を十分できる位置までゆっくり車を出して、歩行者や自転車・二輪車等の存在を確認する。右左折のウィンカーは早めに出して、周囲に自分の車両の存在と次の行動を知らせる。

バックしながら構内から出ることは非常に危険なので、事前に構内でのUターンを行うなど、できるだけ安全な出庫が行えるよう心掛ける。やむを得ずバックにて出庫する場合には、構内の人や他の運転者に誘導や安全確認を依頼する。

相手車や二輪車を発見した時は、“相手が止まって譲ってくれるかもしれない”といった自分に都合のよい判断をせず、相手車が通過するまで待つなど、ゆとりを持っての運転を心掛ける。

